島根の民話　第四五回

椛谷次郎の山芋納め・鹿足郡吉賀町椛谷　令和3年6月15日

収録・解説・酒井　董美（ただよし）　イラスト・福本　隆男

語り手　齋藤亀太郎さん（明治11年生まれ）
収録・昭和37年5月

あらすじ

椛谷次郎はたいへん力の強いものじゃった。前に津和野の殿様に納めるー山芋納めー ということがあったそうじゃ。そのときにほかの者はええ山芋を掘って納めたが、次郎は小もうに折って袋に入れて下げて行ったそうな。そして、ー門を開けー ちゅうて、門を開かせてうちい入って、家来は、椛谷次郎に、ー何しに来たかい― ちゅうて問うと、ー今日は芋納めじゃい― と次郎が答える。ーなに、見せえ―。

次郎が見せたら、山芋は小もう折ったるそうなで、ーこがぁ小もう折っちゃあまらん（よくない）。ほかのものが持ってきたのは、こがぁええ芋じゃ―。家来が怒って言うと、そがぁしたら、ー今日は殿さまが山芋の長そろ（長いまま）を食うて、それを放（ひ）るのを見ていぬる― ちゅうて次郎が言うんだそうなねえ。家来たちは、ーそがぁんことを言うなら縛ってやれ― ちゅうので、大黒柱へ縛りかけたそうな。

次郎はそのとき少し足をかがめとったそうでさあ。ー家来は、ー次郎、直（すぐ）うなっとれ― ちゅう。

次郎は、ーわしの足は、これしか伸びません― ちゅうたげな。受付の者（もん）は、次郎をがんじがらめに縛りつけたげな。そしたら、ーありがとうございました― と次郎がさあっと立ったら、上の木造（屋根を作っている材木）がバラ・バラ落ちはなえたそうな。

家を壊されてはやれんけえ、びっくりした家来は、ー次郎、待て― 言って縄を解いてやって、ーこれをかるえ（背負え）ちゅうて、持って来た山芋の荷を渡いたそうな。次郎は、ーうちの婆が普請せにゃあ、せにゃあ言うが、こがぁな家はよう作らんけえ、こりょう背負（かる）うていぬりゃあ婆が喜ぶけえと思うとったが― ちゅうたら、

ー人を慰むちゅうても、たいがいになれ（からかうのもいいかげんにせよ）― ちゅうて。家来たちは言ったそうな。

それからというものは、椛谷ちゅうもなぁ、山芋納めはなかったちゅうことですわね。

解説

椛谷次郎とは旧・柿木村椛谷（現・吉賀町）のトリックスターと知られた伝説上の人物であり、いろいろなことをして人々の人気を集めている。現在墓印としての木も残されている。

筆者が柿木中学校に勤務したのは昭和37年度（1962）から5年間だったが、当地の古老からこの椛谷次郎に関する伝説は、よく聞かされたものである。

この「山芋納め」についての話は特に知られているので、筆者が脚本を書き、生徒たちを役者に仕立て文化祭に上演し、参観者の多くから歓迎された思い出は懐かしい。中の一人は、浜田高校に進学したが、このときの経験を生かし、演劇部に入って活動したものだと、最近になって知らせてくれたが、教育の力の思わぬ効果に、今頃になって納得している筆者なのである。

（元島根大学法文学部教授）